

塩竈、松島への道

仙台市博物館 学芸企画室 寺澤 慎吾

第4回

原町苦竹の道知るべ石

仙台下の東に位置する宿場として栄えた原町(宮城野区)には、「原町苦竹の道知るべ石」(仙台市指定文化財・図1)といわれる一基の道標があります。嘉永六年(一八五三)に建てられたこの道標には「西 御城下」「南 長町宮城野」「東 八幡八まん七はま」「北 塩かま松嶋」とあり、西は仙台下、南は長町(太白区)、東は八幡神社(多賀城市八幡・七ヶ浜、北は塩竈・松島だと記され、街道が交差する交通の要衝であると分かります。今回はこのうち古くから名所として知られ、また信仰の地であった塩竈、松島への道と、この地を描いた絵画作品を紹介します。



図1 原町苦竹の道知るべ石

仙台から塩竈、松島へ

仙台下から塩竈へ向かう道は塩竈街道と呼ばれました。塩竈街道は北目町(青葉区)を起点として、原町を通ります。原町は、江戸時代前期に舟入堀や舟曳堀が通されると、これら運河と城下を結ぶ地点

描かれた塩竈、松島

名所として知られた塩竈や松島は、古来、襖絵や屏風絵に描

けられることがありましたが、掛け軸として塩竈と松島の景観をセットで描いた古い作例が、菊田栄羽筆「松島・塩竈図」(図2)です。作者の栄羽(一七二一〜一七六八)は、江戸時代中期に仙台藩に仕えた絵師です。向かって右の絵は、東から西方向へ松島を捉え、手前から五大堂、船着き場と瑞巖寺門前町の一部、観瀾亭、雄島が描かれます。左の絵は南から北へ鹽竈神社を見る視点で、手前から御釜神社、祓川、門前町があり、鳥居をくぐり階段を上ると、門を通り、霞がかった別宮・左宮・右宮に至ります。画面には旅人の姿も描かれていて、参詣客が当時も多くいたことをうかがわせます。

となり、特に石巻や塩竈を経由してきた米の集積地となった宿駅でした。図1の道標は、原町の東端にあり、確かにこの付近から塩竈、松島へ向かう街道があったことを示す重要な資料です。ここから北東へ進むと、今市(宮城野区)に至りますが、この途上には塩竈街道沿いの名物として知られる案内の湯豆腐や比丘尼坂の甘酒を提供する茶屋があったといわれています。今市から七北田川を渡り岩切で東に折れてしばらく進めば、多賀城です。街道付近には歌枕である「壺碑」や「野田の玉川」などがあります。そうして陸奥国一の宮である鹽竈神社、海上輸送で栄えた塩竈湊へ着きます。仙台から松島へは、岩切までは塩竈街道と重なる石巻街道があり、塩竈からさらに沿岸路、もしくは舟で松島へ行くルートもありました。例えば、松尾芭蕉は『おくの細道』の旅で、仙台下からおよそ塩竈街道をたどって鹽竈神社へ参詣したと考えられ、塩竈からは舟に乗って海上の島々を見物しながら、松島に着き、雄島や瑞巖寺、五大堂などを廻っています。



塩竈図 松島図  
図2 松島・塩竈図 菊田栄羽筆 仙台市博物館蔵 11月23日(月・祝)まで展示しています。

仙台藩五代藩主・伊達吉村の年代記(『獅山公治家記録』)には、元文五年(一七四〇)七月に吉村が塩竈や松島を寺社参詣などで訪れた後、江戸に住む夫人や嫡男・宗村(六代藩主)などへの土産として塩竈と松島が描かれた絵を贈った、とあります。藩に仕えた絵師が描いた本図もそのような贈り物の一つだったのかもしれない。

旬の常設展2020 秋



「奥羽の戦国大名」ほか

10月6日(火)～12月20日(日)

重要文化財 塵芥集(村田本) 仙台市博物館蔵 展示期間:10月6日(火)～11月29日(日)

特集展示 仙台藩の絵画

10月6日(火)～11月23日(月・祝)

仙台藩主が描いた絵画や藩に仕えた絵師の作品など、江戸時代の仙台を彩った絵画を紹介します。

【観覧料】一般・大学生 460円、高校生 230円、小・中学生 110円 ※新型コロナウイルス感染予防のため、ご来館の際にはマスクの着用にご協力をお願いいたします。

花鳥図屏風(右隻・部分) 伊達綱宗筆 仙台市博物館蔵 展示期間:10月6日(火)～11月23日(月・祝)

仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM

▶11月の休館日 毎週月曜日(2日、23日は開館)、4日(水)、24日(火) ▶開館時間 9:00～16:45(入館は16:15まで)  
▶博物館ホームページ 仙台市博物館 検索 ※開館状況など最新の情報は、博物館ホームページをご覧ください。  
▶博物館ツイッター @sendai\_shihaku 〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡) TEL:022-225-3074